

かぜの便り

浜田空

わるいかぜ

ゆらゆら訪ねてきたけど、無視した
代わりにあさが

いやな横面みせてぷかぷか

あさ

明るくなって、昏くなった
はち切れた感情が

いやな落ち着きがあさを包むのです

あげは蝶の幼虫

噛み砕く夢を見て、嘔吐した
ふしぎと腹は減っていて

あさをじっと見つめる

のどに詰まったあさ

かえって、おちついている

なぜか腹は

どれだけの想いも満たせない

かぜ

我がもの顔で、かおを覗かせる
どうして君は

あさの部屋にあらわれるのですか

ちかごろあなたの翳

もう見掛けないので、たぶん壊れてしまったのだろう
そしてかぜが

「もう、おやすみ。」と氣遣う

視界をおよぐさかな

かぜに飲み込まれて、焦点がずれた

きつと僕は

ひどく安らかに

おやすみ

ああ、かぜだ

そうやってふいに綴じられる

あさはしんだ

まだ居座っていたかぜ、居心地わるそうに

だって場違いなこと

まちがいなくわかつているから